

アイヌタイムズ

第27号

アイヌタイムズ第27号(2003年9月22日発行)からアイヌ語抜粋
著者: 横山裕之

エルムキナ

(アイヌ イタク [アイヌ語])

オオバコ

(日本語)



オオバコ 写真提供: 横山裕之

オオバコ アナク 日本 エピッタ アン ワ、ウ
サ ア・ポロセ プ (レヘ) オカ。

エネ ア・イエ ヒ; 「オンバコ」、「オバコ」、
「ギャーロッパ」、「カエロッパ」、「ゲェーロ
ツパ」、「マルバ」、「マルコバ」、「テリコバ
コ」セコロ ア・イエ。

アイヌ イタク アニ 「エルムキナ」セコロ ア・
イエ プ ネ ルウエ ネ。

知里真志保「分類アイヌ語辞典」カ タ エネ
ア・ヌイエ ヒ; 「ネ ウコンコ エレム サラ ネノ
アン クス、ネワアンペ 「エルムキナ」セコロ
ア・イエ プ ネ ルウエ ネ、セコロ シネ オン
ネ クル ハウエアン」セコロ ア・ヌイエ ワ ア
ン。

川上まつ子 カツケマツ エネ ハウエアニ; 「ネ
ワアンペ ア・ポプテ ワ ア・ク ヒ カ アン。
ア・コトゥッカ ヒ カ アン。

オオバコは、日本のどこにでもあるので、各地
で色々な呼び方があります:

こう言います; オンバコ、オバコ、ギャーロッ
パ、カエロッパ、ゲェーロッパ、マルバ、マルコ
バ、テリコバコ。

アイヌ語では、「エルムキナ」と呼ばれていま
す。

知里真志保の「分類アイヌ語辞典」には、以下
のように書かれています: 「「穂がねずみの尾
に似ているからそう呼ばれる。」と古老が言っ
た。」と書かれています。

(『知里真志保著作集 別巻I 分類アイヌ語辞
典 植物編・動物編』1976年 平凡社 p.33)

川上まつ子さんは、次のように言っています: 「こ
れは煎じて飲むのと、それから、できたものにも
貼り付けて使う。

アクス、ネワアンペ オロワ ウェン ペネ プ
ア・サンケ セコロ ア・イエ ルウエ ネ。
ウェン ペネ プ ア・サンケ コロ、イエヌ ワ
ピリカ ルウエ ネ。
カンナ カンナ ア・イタサレ ルウエ ネ。
エルムキナ ア・カラ ワ ナニ ア・セセツカ コ
コロ、リテン ワ ア・エイワンケ エアシカイ。
ネワアンペ 赤痢 アン ヒ タ ア・ポプテ ワ
ア・ク コロ イヨツタ ピリカ ルウエ ネ。
ク・オナ レ チュブ ウトウル タ パクノ 赤痢
カラ ヒ タ、ナ タストウイ アンキ クニ クラ
ム。
コロカ、ヘトポ ホロカ シクヌ ワ、イネ ホツ
ネ パ パクノ アン ルウエ ネ。ネ タスム ア・
ピリカレ クニ ア・クレ ヒ ケシカルン。

クンネ アユシニ シンリツ ネヤ、エルムキナ
シンリツ ネヤ、ア・ポプテ ワ ア・ナムカ ヒ
ネ、ワツカ クルスイクル アン ヒ タ ア・ク
レ ルウエ ネ。」

中本ムツ子 カツケマツ エネ ハウエアニ；
「ク・セトウル フポ コロ トット エルムキナ セ
セツカ ワ エン・コトウツカ アクス ピリカノ イ
エヌ。」

日本、千島、カラプト（サハリン）、中国、
台湾、東シベリア、マレーシア オロ ウシ
ペ ネ。

ヌブ カ ウシ ヤヤン キナ ネ ルウエ ネ。
エルムキナ アナク *Plantago asiatica* セコ
ロ 学名 アン。asiatica アナク「アジア」セ
コロ ア・イエ ヒ ネ ルウエ ネ。"
「planta」 イタク イベヘ ラテン語 アニ「ウレ
アサム」セコロ ア・イエ プ ネ ワ、
「plantago」 アナク、ウレアサム コラチ シピ
ラサ ハム アン ヒ ア・ポロセ プ ネ ルウエ
ネ。

漢方 オツタ、サツ キナ シンリチ アナク
「車前草(シャゼンソウ)」セコロ ア・イエ プ
ネ ワ、エプイケ アナク「車前子(シャゼン
シ)」セコロ ア・イエ プ ネ。

そうすれば、悪いつゆを吸い上げるだっていっ
て。

悪いつゆを吸い出しているうちに膿も出たり、
膿のねっこが出ればもう後、治ってくるの。

何回も貼り替えるんだ。

火にあぶれば柔らかくなるの。採ってすぐ。

ちょっと火にあぶって柔らかくなったら使える。

煎じて飲んでいいのは、腹、赤痢の時の薬に
最高良かったの。

うちの親父がその赤痢で三ヶ月、もう駄目だと
思ったもの生き抜いてから八十なんぼまで生
きていたんだもの、それを助けるために使って
覚えているの。

クマイチゴの根とオオバコの根と煎じて冷まし
ておいて、水欲しがるとき、飲ましてやる。」

(『川上まつ子の伝承-植物編 1-』(財)アイヌ民
族博物館編 1999 年 (財)アイヌ民族博物館
p.18~p.20)

中本ムツ子さんは、以下のように言ってます：
「背中に腫れ物ができたとき、母はオオバコを
あぶって貼ってくれました。するとよく膿が出ま
した。」

(『アイヌの知恵・ウパシクマ』1999 年 片山言語
文化研究所 p.20 からの引用)

日本の他に、千島、サハリン、中国、台湾、東
シベリア、マレーシアに分布し、

草地に普通に見られます。

学名である「*Plantago asiatica*」の asiatica
は、「アジア」ということを意味します。

Plantago は、ラテン語の *Planta*「足の裏」に由
来し、葉の開いた状態を表します。

漢方では、乾燥した全草は「車前草(シャゼンソ
ウ)」、種子は「車前子(シャゼンシ)」といいま
す。

「車前草(シャゼンソウ)」ア・ポプテ ワ ルリ
ア・カラ。ルリ アナクネ、オクイマ・アン ヒ
タ ネヤ、オムケカラ・アン ヒ タ ネヤ、ホチ
ヤク・アン ヒ タ ネヤ ア・ク コロ ピリカ ルウ
エ ネ。

全草の煎汁を、利尿、咳止め、下痢止めに用
います。



車前草(シャゼンソウ) 写真提供: 津野正樹氏

アイヌタイムズをご購入していただける方がお知り合いでいらっしゃいましたら、お声をかけてい
ただけると大変うれしく思います。

購読連絡先: 〒055-0101 北海道平取町二風谷 80-25 萱野志朗(宛)
購読料: 1500 円 (4 号ごと/アイヌ語版のみ)
2300 円(4 号ごと/アイヌ語版と日本語版)

読者からの投稿募集:

(連絡先): 〒047-0033

浜田隆史(宛)

北海道小樽市富岡 1-32-136

電子メール: otarunay@yahoo.co.jp

ウェブページ: <https://otarunay.at-ninja.jp/taimuzu.html>

注)アイヌタイムズの著作権は、アイヌ語ペンクラブにあります。

注)1. 赤字は、アイヌ語です。

2. 赤字のイタリック文字は、主に日本語由来のアイヌ語外来語です。